

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2691600015
法人名	社会福祉法人 友愛会
事業所名	グループホームすずらん
所在地	京都府亀岡市余部町中条17番地 (電話) 0771(20)2840

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(20年2月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	26,350 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 650 円
	夕食	650 円	おやつ 昼食込 円
または1日当たり 1500 円			

(4)利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	瀬尾医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い街並みの中に重厚な玄関や石庭、旧家のたたずまい等、どれも地域にある環境がそのまま活かされています。新しいホームの立ち上げに込められた利用者本位の思いが、穏やかな事業所の雰囲気表れています。家族のような存在の職員たちと、アットホームな雰囲気の中で自由で気楽な感じで過ごされています。地域での立ち上げが多くの人たちの関心を集めており、これに応じて様々な地域に向けての働きかけられています。また地域交流会を企画したり、職員の手作り講習会も試みたりしています。それらを機関紙すずらんとして発信しています。今後の関わりとして、地域推進委員会の意見を聴くなどしつつ前進しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今が初めての外部評価です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	主要なメンバーで評価したものを管理者がまとめ、理事会に報告をしています。さらに自己評価に基づき改善目標を定め、サービスの向上に向けて取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会、民生委員、地域包括、家族、市の介護保険課からなる推進委員7名で構成されており、事業所の状況報告を行いながら意見交換をしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	なかなか意見が出にくいこともあり、アンケートを取ったり、会話の中で要望などを拾い上げるなどしています。課題として家族会議の開催を検討しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事であるふれあいサロンに施設長がスタッフとして参加したり、天神さんの掃除や祭りの準備その他に職員が手伝ったり、利用者が参加したりしています。自治会の講座にもタイアップした取り組みを検討中で、40~50歳代向けに介護の話し合いをしたり、また認知症についての講演なども考えています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつまでもその人らしい生き方をしてほしい」と願い、利用者・家族・地域との「心のふれあい」を大切にという、地域密着の考え方を盛り込んだ事業所独自の理念を、ホームの立ち上げ時にグループで作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議を全員出席のもとに行い、新人の多い職員体制の中で、理念に沿って「利用者がその人らしく日々を暮らせる」という課題に向けて考え、検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	様々な方法で情報を発信している。オープン時の見学会では100人以上の人が訪れ、地域における興味の対象となっている。自治会に参加し、行事に地域の方々をお誘いしているが、実際の参加者はまだ少ないのが現状である。「すずらん新聞」を発行し自治会の回覧板で情報を発信している。自治会の協力を得ながら、認知症についての講演や40～50代の方を対象とする介護者向けの話し合いなどが計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員から情報を収集し、主要メンバーがたたき台となる評価を作り、再び全職員が閲覧修正補足を行って作成されている。自己評価の実施そのものが事業所のサービス向上につながると位置付けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、市の介護保険課、民生委員、地域包括の職員、家族、職員がメンバーとなり、事業所の現状や、すずらん新聞の内容・評価などについて話し合っている。	○	今後、地域の理解と支援を得る貴重な機会とし、評価後の取り組みや改善経過についても検討し、さらにサービスの質の向上に活かしていく事が期待される。

グループホームすずらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	亀岡市の介護相談員からのホーム見学依頼があったり、地域支援課が行う6回シリーズの認知症研修会に管理者が講演を行うなど市町村との連携をとりつつ質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多く、日常生活の報告が取りやすい状況にある。特記事項は直接家族に連絡しているが、月1度請求書の送付時「おたより」を同封し情報が伝わるような配慮がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族との会話の中で意見、要望、苦情等くみ取りサービスに反映できるよう職員間で話し合っている。またアンケートを取り会議で話し合っている。今後に向けて家族懇談会の取り組みを企画中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後、まだ1年足らずで離職も少なく馴染みの関係でのケアに配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の研修計画を企画し、事業所内外の研修に積極的に参加しており、参加者は職員会議で伝達研修を行っている。また、職員会議の中で上がった内容も研修に組み込んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	亀岡、南丹地域で管理者、ケアマネジャーの情報交換会が行われている。亀岡市として交流会の意向があり、職員間の交流も課題であるが、出来る範囲から取り組んでいきたい意向である。	○	交換研修など職員が同業者間で交流できる機会を作り、よりよいサービスにつなげられることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族には入居以前に見学対応をし、雰囲気を理解してもらっている。また来所されない場合は職員が訪問して説明をする体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にとって年の若い職員は孫のような存在であり、職員が逆に教えられることも多くある。日々の生活の中で、職員と一緒に過ごし寄り添う時間を大切に、楽しい時間を共有している。食事準備、おやつ作りや作業等を共に行う中で穏やかに変化する利用者がおられ問題行動の軽減になっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に希望や思いを収集し記録している。センター方式も一部使用しながら、日常会話の中などでさらに意向の収集把握に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞いてケアプランに反映するようにしている。カンファレンスには計画担当者、家族が参加し一人ひとりに合ったケアプランが作成されている。	○	サービス担当者会議などケアマネジャーや家族が参加されきっちりと記録がされているが、様々な角度から一人ひとりの全体像が見れるよう、担当職員の参加が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは基本的に6か月に1回されており、日々の記録もプランにそった記録がされている。状態に変化があった場合は新たなプランを作成している。	○	利用者の変化を職員間で共有するために、モニタリングの間隔を3ヶ月に1回くらいの頻度で実施される事を期待する。

グループホームすずらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多様なニーズに対応するために、利用者の思いを家族に伝えている。家族が行けない場合、かかりつけの病院や、行きつけの美容院への送迎など希望をかなえている。また家族の宿泊室も用意をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への連絡を取り、困ったときの相談などを行っている。かかりつけ医への受診は家族が中心ではあるが状況によって職員が付き添う場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	経過の中で終末期医療に向けた話し合いを会議で行っている。契約時には中間施設でしかないという考え方であったが、利用者の退院時の「我が家に帰ってきた」という発言で、家族の思いがあれば検討の方向にある。近く往診医を依頼していきたいという思いがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応に気をつけており、食事時など皆が集まる状況の時などはさらに気をつけている。書類は基本的には事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的なスケジュールはなく、散歩・食事など出来る限り利用者の気持ちをくみ取り、希望にそった支援に心がけている。また、地域の行事への参加を呼び掛け、希望にそって歌謡ショー等に参加された。		

グループホームすずらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを手伝う人、おやつを作る人、男性利用者も積極的に手伝い、和やかに時間がながれている。行事食は利用者の好みを聞き、手作りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日3~4名の方が入浴しており、午後4時から6時までとなっている。また夜間希望もあれば意向にそよう配慮している。入浴回数は希望に応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花を生けたり、編み物・裁縫・読書など、入居者の経験や今ある力を発揮できる場面作りを大切に、負担にならないよう役割や楽しみごとを相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの思いを大切に、買い物や散歩、また遠出の希望も手の空いた職員でかなえられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車の往来が頻繁であるため、グループホームの玄関は施錠されている。玄関周りを整備することで開放を検討中である。	○	比較的広い玄関ルームの有効利用を検討されているが、玄関の施錠についても掛けない工夫を検討されるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理責任者研修は受けているが、災害対策はまだ実施されていない。	○	防災マニュアルが作成されるとともに、地域の協力も得ながら避難訓練が行われることを期待する。

グループホームすずらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を業者に委託しており、栄養士による栄養管理がなされている。また、事前の嗜好調査や体調に合わせて代替え食などを準備している他、粥食にしたりとろみをつけるなど、一人ひとりの状況に応じた支援をしている。水分摂取量においても、不足しないようチェック表にて把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古いたたずまいの中にあり、重厚な造りの住まいを改良されており、従前の石庭から差し込む日差しにより、リビングは明るく心地よい空間となっている。廊下には雛人形が飾られ、梅の花などが生けられ季節感が漂っている。またウッドデッキが作られており、行事や日向ぼっこに使用され心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇、物品など普段家庭で使用されていたものを持ち込まれたり、写真などを飾ったりして、一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた空間作りに配慮されている。		